

## 教材名「今しかできないことをがんばって！」(学校図書 5年 P82)

内容項目：主として自分に関わること      主題：希望と勇気 努力と強い意志

### 1. 本教材について

- ▼レスリングの世界大会で16連覇を達成し、オリンピックでも金メダリストとなった吉田沙保里さんのそれまでの生い立ちと、「夢をもって目標をたてて『今』をしっかりと生きてほしいと願っている。」という吉田さんからのメッセージの教材です。
- ▼夢を持ち、計画をたてその夢に向かって努力を積み重ねていっても、誰でもその夢がかなうわけではありません。夢をかなえたごく一握りの人から、「あきらめずにがんばれ、努力すればいつか必ず夢はかなう」と言われても、5年生にもなれば、そうばかりではないことは知っています。がんばること、努力することの意味は、成功した人の話だけで信じることはできないでしょう。また、「がんばれ」「あきらめな」と繰り返されるメッセージに、逆に追い詰められる気持ちになる子どもたちもいるのではないのでしょうか。
- ▼教材文の吉田沙保里さんのメッセージからは、吉田さん自身は「夢を追いかけること」と『今』をしっかりと生きること」が小学生の頃からストレートにつながっていました。それは幸せなことなのかもしれませんが、けれども、「夢を追いかける」ということと『今』をけん命に生きる」ということが、つながらない人がたくさんいるし、努力が結果に結びつかない人がたくさんいるのが現実です。
- ▼夢をもつことで、今何をすべきかということが見えてくることはありますが、夢と直接つながらなくても、現実の中で立ち現れてくる「課題」の一つずつに取り組んでいくことや、小さなことでも、「よし、やった、できた」という成功体験を積み重ねていくことが、夢を実現する力になるし、夢が破れて挫折した時に、そこから立ち上がり、次をめざす力になるのではないのでしょうか。
- ▼教材P83と別冊P12にも、2012年ロンドンオリンピックで優勝したときの写真に、今年の6月14日パワハラ問題で公益財団法人日本レスリング協会強化本部長を解任された栄和人・至学館大学監督が吉田沙保里さんと、父と共に掲載されています。公的な機関がパワハラを認定し、本人も吉田さん他関係者に謝罪をしているのですから、この教材を扱う場合は道徳の教科書にパワハラを行った人物を掲載することは不適切であることを認識する必要があります。不適切な教材として扱わないという選択肢もあります。

### 2. 本教材を扱う際に、特に注意すべきだと考えたこと

- ▼夢を実現することはうれしくて幸せなことです。結果を求めるのではなくて、夢をもつ楽しさ、夢を追いかける楽しさ、もあるんだということがわかるといいなと思います。
- ▼今、夢をもつことができなくても、目の前の課題の一つずつ取り組んでいく中で少しずつ夢が固まっていくこともあることを知ってほしいと思います。
- ▼別冊P13の「目標や夢に向かって努力しよう」の文章と山登りの絵は、「夢を持たなくてはならない」「正しい答えはこれです。」と言っているようなものです。夢をもたないことが悪いことではないし、夢をもつことを強制する必要はありません。

## 3. 指導過程

	子どもの活動や教師の発問等	留意点
導入	<p>◆夢はもつべきか？</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・あるテレビ番組で、タモリさんは「夢なんてもつべきじゃない」という意味のことを言い、それを聞いたキムタクさんは、ラジオ番組で「夢をもたない生き方は、ないなあ」と反論したという二人の意見について考える。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・参考資料を教師が「こんな話を聞いたよ」と読み聞かせる。</li> </ul>
展開	<p>◆教材文を読む</p> <p>吉田沙保里さんは</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・夢に向かってまっしぐらに、まっすぐな道を突き進んだ。</li> <li>・レスリングひとすじでがんばった。</li> <li>・夢を実現した。</li> </ul>	
まとめ	<p>◆まとめた自分の考えをみんなで交流する。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・夢に向かって努力し、夢をかなえることが出来たら、それはとても幸せなことだ。けれども、夢をあきらめざるを得ない時もある。気持ちが変わることもある。たとえ夢がかなわなくても、自分の描いた夢とは違っていても、その時その時の気持ちに正直に、その時をけん命に生きること、自分の生き方を見つけることができたとしたら、それもとても幸せなことだと考えられたらよいと思う。</li> </ul>

## 4. 参考資料

●タモリさんの夢についての考え方は「夢があるようじゃ人間終わりだね」。

2018年5月、タモリさんはフジテレビ系『ヨルタモリ』で、「夢を持つ生き方」について「夢があるようじゃ人間終わりだね」「夢の達成される前の期間は、まったく意味のないつまらない期間

になる」と話した。「夢を持つ生き方」を「悲劇的な生き方」とも述べました。さらに「夢が達成されなかったらどうなるんだ? って話だよ」と続けました。

タモリさんは、一芸を成し遂げた人は、何かに夢中になっていただけのことだという。「そういう人たちは夢を持ってやってたかっていうと、そうじゃないよね」との考えを述べました。

●キムタクさんの夢についての考え方は「(夢を持たない生き方) ないなあ」。

タモリさんの意見を否定したのが、SMAPのキムタク(木村拓哉)さんだ。ラジオ番組で、木村さんにとっては夢が叶うたびに「叶うんだったら、次も持つべき」と考えるため、そこで終わりにはならないのです。このように自分の考えを整理した上で、「夢を持たない生き方」について「ないなあ…そういう考え方は」とタモリさんの「夢」についての意見に反論しました。

二人は反対のことを言っているようですが、言いたいことは同じのような気がします。それは、「自分の人生を楽しく生きようよ」ということかもしれません。その生き方として、タモリさんは「夢を持たない」生き方で、キムタクさんは「夢が必要」という生き方の違いがあるのではないのでしょうか。確かに、「夢を持たないといけない」という義務感や強迫観念によって、自分の人生がつまらなくなるくらいなら、タモリさんが言うように「持たない」方がいいでしょう。夢を持つことがエネルギーになり、楽しい人生を生きていけるならキムタクさんが言うように「持つ」ことは素晴らしいことです。

人生は長いとは限らず、突然終わることもある。そんなとき、「夢を持ち、その夢の達成」を目標にしていたことで、その将来の夢のために今をつまらないものにしてはいけないと考えることができます。夢を持っているかどうかというより、自分の人生の一瞬一瞬を、楽しくしかも真剣に生きていくかどうかの方が重要なかもしれません。